【提出様式】　令和７年度　豊島区立学校　学校評価　自己評価表

豊島区立　西巣鴨小　学校

評価対象者数　（人）			
児童・生徒数	保護者数	教職員数	地域の方
208	222	20	16

領域	豊島区教育ビジョン2025 基本方針等	評価番号	評価項目	年間評価 児童・生徒 4	3	2	1	保護者 4	3	2	1	0	地域 4	3	2	1	0	教職員 4	3	2	1	自己評価概要	学校関係者による評価 学校関係者評価の意見	標語	次年度に向けた改善策
Ⅱ	就学前から小学校・中学校への円滑な接続	Ⅱ－１	学校は、関係諸機関等(保育園や幼稚園、小学校、中学校)と連携を図ろうとしている。					48	136	12	4	22	8	6	0	0	2	9	11	0	0	肯定的評価が８４％だった。６年生は巣鴨北中との交流や授業体験を行った。１～５年生は、西巣鴨幼稚園と交流した。特に１年は近隣の保育園・幼稚園とも交流を深めた。	西巣幼稚園以外の地域の保育園・幼稚園と交流できていることは今後も進めていってほしい。	A	次年度は西巣鴨幼稚園の園児数０名なので、今年度以上に保育園との交流を深めていく。現在保育園と行事等の連絡を取り合い本校に参観に来るだけでなく相互に交流できるよう計画をしている。
Ⅰ	確かな学力の育成	Ⅰ－１	学校は、子どもの学力の定着・向上のために、分かりやすい授業を行っている。	児童・生徒を対象としたアンケート集計表をご参照ください。				59	137	11	0	15	5	7	1	0	3	10	10	0	0	肯定的評価が８７％だった。デジタル教科書の教科が増えて、昨年度より活用しやすくなっている。動画視聴や児童の作品の共有等で大型モニターを活用した。児童はミライシード、グーグルスライド、調べ学習のツール等でタブレットを活用した。児童が目的ではなく手段としてICTを活用できるよう、教職員の指導法の改善を目指していく。また１～４年はタブレット端末が新しくなった。	タブレット端末を活用することで、学校で行っていた「読み・書き」が疎かになるのではないかと危惧している。セーフティ教室などでSNSの使い方の指導を保護者を含めてしてほしい。	A	児童がタブレットで使用するミライシード、グーグルスライド、調べ学習ツールは更新されるバージョンに合わせて適宜教職員研修、児童指導を行っていく。今年度は昨年度に比べてタブレット等デジタル機器の活用場面が増えてきた。次年度は更に有効活用を進めていく中で分かりやすい授業、学習意欲の向上、学力向上に取り組んでいく。また今年度校内研主題であった「インクルーシブ型の考えを基にした授業作り・環境作り」の実践を深めていく。
		Ⅰ－２	学校は、ＩＣＴ機器やタブレット端末等の活用により、分かりやすい授業の実施や子どもの学びの意欲の向上に取り組んでいる。					57	135	19	2	9	7	6	0	0	3	9	11	0	0				
	豊かな心の育成	Ⅰ－３	学校は、道徳科の時間を含めた全教育活動をとおして、互いの良さを尊重し合う温かい学校づくりを推進している。					47	147	10	0	18	4	6	2	0	4	9	11	0	0	肯定的評価が８７％だった。道徳主任を中心に豊かな心の育成のために教育活動を実践できた。道徳地区公開講座などを通して地域に教育活動を公開した。また４つの「あ」（安全・安心・あいさつ・ありがとう）をスローガンとして学校生活を思いやりをもって過ごせるよう日頃より声掛けをしている。	道徳地区公開講座では、教室で行う道徳の授業以外にも出前授業を行ってもらえると興味を持ってさらに参観者が増えるのではないか。上でのセーフティ教室など含めて地域の人が参観できる行事など通知があると参加しやすい。	A	道徳地区公開講座は、参加人数が少なかった。次年度はより保護者・地域の方が学校の道徳教育に対して興味関心をもってもらえるよう講師や内容を検討している。あいさつに関しては、日頃から呼びかけてはいるがなかなか定着していない現状があるので、あいさつの大切さについては全校で改めて指導していく必要がある。
		Ⅰ－４	学校は、生命を大切にする態度や思いやり、優しい心を育てている。					47	146	16	0	13	6	6	1	1	2	9	11	0	0				
	健やかな体の育成	Ⅰ－５	学校は、子どもの体力向上や健康の促進に、積極的に取り組んでいる。					63	141	8	0	10	6	8	0	0	2	10	10	0	0	肯定的評価が８９％だった。体育の学習だけではなく、休み時間を活用した「にしすっ子タイム」や「持久走タイム」「縄跳びタイム」など体力向上に向けた取り組みを実施した。また給食試食会、栄養士と養護教諭による健康や食育に関する授業等を実施し、健康や食事に対しての意識向上を図った。	教職試食会は例年通り概ね好評だった。給食の量の多寡について意見があった。	A	体力向上に向けた取り組みには児童は一生懸命取り組む姿が見られた。まずは児童が体を動かすことが大好きになるよう体育の学習で取り組んでいく。給食試食会は例年通り好評で多くの保護者の方に参加してもらっている。美味しい給食をこれからも提供していく。量については配膳する際に提示していく。また健康や食事に対しての意識向上をこれからも図っていく。
		Ⅰ－６	学校は、充実した食育指導を通して、健康教育に取り組んでいる。					61	129	13	0	19	5	7	0	0	4	8	12	0	0				
Ⅲ	一人一人を大切にする教育の推進	Ⅲ－１	学校は、いじめ防止等（未然防止、早期発見、早期対応）に学校全体で組織的に対応している。					30	107	21	7	57	4	5	2	1	4	12	8	0	0	肯定的評価は７４％だった。いじめ未然防止・早期発見・早期対応のため、本校は毎月「なかよし調査」を実施した。教員にとって見えにくい児童同士の関係や言語化しにくい学校に対しての意識などが明らかになるI-checkを年間２回実施した。児童が困っているときに教員は傾聴し、保護者との連絡を密にし、児童の安心できる環境を築いている。また学校だより「西巣の窓」で教育活動を定期的に紹介した。	毎日の学校生活の中でいじめ防止対応や特別支援教育については、外部からすると分かりにくい。児童が落ち着いて生活を送っている様子は学校に来ると理解できる。	A	いじめ防止対応や特別支援教育等について現在学校だより「西巣の窓」で定期的に紹介している。引き続き伝えていくことで理解を深めていけるよう努めていく。児童が困っていることについては些細な事でも週１回の生活指導連絡会で情報共有していく。またその情報をデータベースに適宜格納することで、経年変化についても共有できるようにしていく。
		Ⅲ－２	学校は、子ども達の気持ちを理解するために、一人一人に寄り添いながら、指導を行っている。					51	126	25	4	16	4	8	1	0	3	10	10	0	0				
		Ⅲ－３	学校は、特別支援教育や発達障害等に関して、一人一人に適切な指導を行っている。					56	110	7	2	47	6	8	0	0	2	13	6	1	0				
Ⅴ	教師力の向上と魅力ある学校づくり	Ⅴ－１	学校は秩序があり、子ども達は落ち着いて学校生活を送っている。					42	149	15	2	14	6	8	0	0	2	8	12	0	0	肯定的評価は８４％だった。学年や学級で多少の差はあるものの、全体的には落ち着いて学校生活を送っている。保護者や地域の意見や要望に対して検討を重ね、改善できる箇所を改善し、時間を要する箇所は情報共有、検討を繰り返し課題解決できるよう取り組んでいる。	児童が落ち着いて学校生活を送っていることは嬉しく感じる。これからも児童に寄り添った指導で過ごしやすい環境を整えていってほしい。	A	保護者一人一人の全ての要望に応えることは難しいところがあるが、ご意見として真摯に受け止めて、校内で検討し教育活動の改善に生かしていく。学校で検討したことを発信し、学校教育の見える化を図っていく。また令和８年度よりコミュニティスクールが開始になる。より地域と密接に結びついていきたい。
		Ⅴ－２	学校は、保護者や地域の方の意見や要望を受け止め、学校改善に生かしている。					40	137	11	4	30	6	7	1	1	1	7	13	0	0				
	家庭・地域との連携	Ⅴ－３	学校は、学校や子ども達の様子を、学校だよりやホームページ、学校公開等によって、分かりやすく伝えている。					54	143	15	3	7	8	6	0	0	2	11	9	0	0	肯定的評価は８６％だった。年度初めはホームページリニューアル工事等で投稿の頻度が低かったがそれ以降は平均１日２投稿のペースで全校の様子を伝えた。また今年度から保護者との連絡ツールとして「すぐーる」を活用し、紙面プリント配布ではなくデジタルデータの配布を活用している。	学校だより等で来月の日程が掲載されているが、もっと早く日程が知りたい。	A	ホームページで新着記事は１日平均２投稿のペースで行っていく。また学校だより「西巣の窓」では定期的に学校の見える化を図っている。また各月の日程については学校だよりで来月分より１週間長く記載するようにした。連絡ツール「すぐーる」を有効活用し。紙面プリント配布ではなくデジタルデータを配布を進めていく。
		Ⅴ－４	学校は、家庭や地域と協力しながら子どもを教育している。					49	130	24	3	16	6	8	0	1	1	10	10	0	0				
	特色ある教育活動	Ⅴ－６	学校は、インクルーシブ教育の観点から、たけのこ学級と通常の学級との交流及び共同学習への取り組みを推進している。					54	129	11	0	28	8	5	0	0	3	9	10	1	0	肯定的評価は８３％だった。校外学習、運動会等の行事で、たけのこ学級と通常学級の共同学習を日常的に行っている。児童の実態により通常学級で学習を行う交流を教科毎に行っている。	たけのこ学級と通常学級の交流はこれからも続けていってほしい。まとめ展についても通知があると地域の人が参加しやすい。	A	通常学級とたけのこ学級では教員・児童共に交流する中でお互いの理解が深まっていることを感じている。児童の実態に応じた通常学級で行う学習交流は検討しながら教科毎に進めていきたい。
Ⅳ	働き方改革	Ⅳ－１	学校は、校務支援システムの活用や「チーム学校」を意識した業務分担等により、組織的に業務の効率化・最適化を目指して取り組んでいる。															7	13	0	0	肯定的評価は100%だった。ICT活用により、授業、成績処理等の業務で効率化を進めている。休暇の教員がいる場合は素早く業務分担を行い、「チーム学校」を意識した取り組みを日々実践している。11月時間外在校時間22.7時間（１日平均1.2時間）だった。	教員が働きやすい環境になることは学校全体にとってもよいことである。	A	業務分担するだけでなく、「チーム学校」として組織的に対応できるように組織の中で教職員同士が助け合える学校を目指していく。

※学校関係者による評価の評語は、自己評価結果について以下の視点で行う。　A　評価は妥当である　　B　評価はおおむね妥当である　　C　評価は妥当ではない　　D　評価方法を見直す必要がある